

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろんな考えがあるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 661

2023年10月

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- 『東日本大震災と子どものミライ』に寄せて 2
- 怒る正造 乾機の書簡 7
- 闘病記(2) 8
- 「世界で最初に創れるのは日本」など 10
- お便りから 14
- 山仕事(8月大平) 17
- 開墾 20
- け・い・じ・ばん 24



泉ゆきを『心はいつも山頭火』
(日本習字普及協会)

やっど秋。

体をいたわり
ながら
楽しみましょう

9月24日現在の
会員数 208名

この見本誌をみて新たに

「読んでみようか」という方は、
年会費 4,000円を

郵便局で 00100-2-20630

「雑報友の会」

へ 併い込んで下さい。

題 字 放 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 放 泉ゆきさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は、
日本・PIL-外交関係樹立150周年。

山仕事(8月.大平)

7月の山仕事が中止となったので、久しぶりに大平へ。今回、大勢が参加し賑やかとなった。

8月23日(水)。例年なら秋の気配が感じられるのに、今年は真夏日が続く。昨夜も睡眠中、汗を下着を3回とり替えた。

少しでも涼しいと早めに家を出たら、東京駅で本前の「こだま」にのれた。いつもは6号車の自由席にのるが、気分を変えて15号車の自由席にのる。

天沼線掛川駅で康江、三宅伊都子、原田、山崎さんと合流。途中の桜木駅では前田聡さんが乗ってきた。前田さんは夜行バスで京都から早朝掛川に着き、こまで歩いてきたのだ。元気ですね。

敷地駅で正士、久米、宍屋、深谷、若林さんに迎えられる。水窪の皆さんは、いつも三日間のうちまん中の日に見えるが、今回、初日の都合がつかないのだらう。メンバーも宍屋千鶴さんと竹中礼子さんの二人だけだ。た。

正士さんちに着いて、買物組(康江、久米さん)と草刈り組に分かれる。竹中礼子さんはすでに釣参入りだ。遅れて、地域づくり協力隊の山本真弓さんも加わる。

草刈り組も、原田、山崎さんとぼくは田んぼの畦畔、前田、深谷、若林さんはソバ畑と二手に分かれた。

さうそう、この日は昼食をとらずに来るよう言われており、正士さんちに到着早々昼食となった。

(昼) 水窪から持参された海鮮丼、おはぎに野菜の煮物が二種類。水窪は山里。そこでなぜ海鮮丼と思ったか、これがなかなかの鮮度のよさ。おはぎ(宍屋さんの畑の小豆あん、くりあん、黄粉)もおいしく、正士さんは海鮮丼を平げたと、おはぎを5個も食べたのには皆さんびっくり。

昼食後、買物と草刈りにかかる。畦畔の方が早く終り、ソバ畑を応援。こちらは、牧草に似た草が2m近くにおび、倒伏している部分も多く苦戦した。18時すぎに終わったが、大汗をかき、足も手もツリかけた。

戻ると、水窪のお二人はすでに帰宅。忙しい中を今回もご馳走さまでした。三宅さんも日帰り。神奈川県小平市からわざわざ来てくれてありがとうございます。

(夕) カツオのたたきとなめろう(英ちゃん調理)、豚しゃぶサラダ、人参のカレツト、イカとオクラにトマトのサラダ。正士さんのおそばはお休みで、前田さんの京菓子「阿闍梨餅」と内田美智子さんからのみずぎねとお饅頭をいただく。

この夜は伊藤、恵一郎、松田敏幸、山内由美さんも参加。この三名は、以前正士さんを務めた磐田市の人権擁護委員仲間だ。

夜、母屋で寢袋に。

8月24日(木)。夜、時々激しい雨音。未明、至近に落雷の気配。ピカッと光って
から/秒もたたぬうちに大きな音が。夜が明けても雨は止まない。

今日から明日、竹中さんが参加。前田さんは午後帰宅。

この日、茶園の草刈り、裾刈り、施肥、耕耘のほか倒木整理の予定だったが、
倉庫の整理に変更。

ふたん入ることのない倉庫だったが、ぼう大な資料と梅酒などのビン、空ビ
ンが沢山入っている。

正士さんは、さまざまな資料、広葉誌などをきちんと整理している。バンダ
ーから紙の資料をとり外し、金具をとり、仕分けをして軽トラックにのせ、正士さんと竹中
さんが処分場に運ぶ。

20年にわたってたまった梅酒、梅ジュースのビン(8リットル入り)は、正士さん
が記録に残すと言ひ、ラベルから生産年、梅の収穫場所、重量を一覧表にして
から、きれいに洗った/弁ビン(何十本もある)に移し入れ、新たなラベルを貼る。

(昼) 京江さんと久米さんがビン整理をしながら調理したとうめん(伊藤
和代さんから)を、久米さんのだしをかきして、天ぷら、キョウリとワカメとシラス
干しの酢の物。

午後し片づく気配がなく、英ちゃんと二人、東垂れの茶園の草刈りに出る。ま
なく降り出した雨で、靴の中までグシャグシャになった。

夜、山中圭子さん(浜松市)から電話。子どもたちに植林の体験をさせたいと、
協力してくれる土地を探している人がいる。話をきいてやってほしいと。次回、9月7日
16時頃訪ねて来ることになった。

(夕) キクラゲと豚の新ショウガ炒め、アジのさんが焼(英ちゃん)、紺文のハンパン焼(焼
き過ぎないようにと、山ちゃん)、タレカの青シソ炒め、フライドポテト(青山さん持
参)、冷奴に白菜漬。竹中さんから朝日山の秣米大吟醸。

食後、子息の啓史さんと懇談。啓史さんから、これまでの猫の手の活動に対して
感謝が述べられた。続いて、幼い頃から後を継ぐことと期待され、お父さんとの
違いから葛藤があり、悩み、考へながら今日に至ったこと。そして父正士さんと同
じこととするつもりはないと告げられた。生来寡黙な啓史さんだが、訥々と、しかし
真摯に語ってくれた。

前もっておちよそのことは正士さんから告げられていたが、何とかして翻意しても
うらないか、猫の手仲間からも心こめて話しかけた。

山ちゃんは笑いを誘って空気をやわらげ、英ちゃんは啓史さんが好きなエビネ(ラ
ンの仲間)を話題にして心をときほぐそうと努めた。若林さんは啓史さん仲間
間として語りかけた。久米さんの話ぶりには、慈しみの心が感じられた。

結局、啓史さんの思いは変わらなかったが、お互いに率直でよい話し合いだったと思う。青山さんも、地域の中で必ずしも理解されないところのある正士さんの数少ない理解者として口添えをしてくれた。

この後、再び話し合う機会があるかどうかはわからないが、もし啓史さんが許容してくれる部分があれば、喜んで協力するつもりだ。

8月25日(金)、やと晴れる。康江、又米、竹中、原田さんが昨日に続くビンの整理。山本真由美、山崎、若林さんとぼくが茶園の草刈り。東垂れに終え、常森にかかったところでタイムオーバー。竹中さんから肥料散布機の提供があったが、それまでに至らず、倒木整理も後回し。ビンの整理は、かなり進んでいた。

(昼)カレーライスと野菜炒め。

正士さんは午後、病院へ検査を受けに行くとのことだったが、血糖値が低下し、内田さんの白饅頭で急場をしのいだ。氷砂糖などと身につけているだろうが、饅頭が一番だ。教地駅で正士、又米、山本、若林さんに見送られ、帰宅。

(写真は、届き次第掲載します。
(山仕事、9月大早は、次号にのせます)